

## 第13回 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録（案）

日 時 平成30年3月12日（月） 10時00分～11時35分  
場 所 東京工業大学すずかけ台キャンパス 大学会館2階 集会室1  
出席者 高梨 弘毅, 高田 雅介, 西山 功, 鈴木 紀雄, 木村 茂行, 岡田 哲男, 穂田 宗隆,  
中島 章 の各委員  
所内出席者 神谷 利夫（フロンティア材料研究所 所長）  
原 亨和（フロンティア材料研究所 副所長）  
真島 豊（フロンティア材料研究所 教授）  
川路 均（フロンティア材料研究所 教授）  
河野 進（フロンティア材料研究所／未来産業技術研究所 教授）

### 配付資料

- 別紙1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 別紙2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
- 別紙3. 第12回東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録（案）

### 資 料

- 1. 研究組織図
- 2-1. 平成29年度教員人事異動一覧
- 2-2. フロンティア材料研究所教員組織（平成30年3月1日現在）
- 3-1. 平成28年度研究所決算額について
- 3-2. 平成29年度研究所当初予算配分表（運営費交付金）
- 3-3. 外部資金受入状況について（平成25年度～平成29年度）
- 4-1. 共同利用研究（平成22年度～平成29年度）実績データ
- 4-2. 平成30年度共同利用研究応募状況一覧
- 4-3. 平成30年度概算要求事項の概要「先端無機材料共同研究拠点の機能強化」
- 5-1. 本研究所における研究論文などの研究業績データ
- 5-2. セミナー・シンポジウム等開催状況
- 5-3. 平成29年度学術講演講師一覧
- 5-4. フロンティア材料研究所受賞者一覧
- 5-5. 2017年度パブリシティー
- 5-6. 研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移
- 5-7. 特許出願・登録状況一覧
- 6-1. 6大学連携プロジェクトニュース
- 6-2. 6大学研究所連携 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト平成29年度報告
- 6-3. 平成30年度概算要求事項の概要「学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト

### 席上配付冊子

- 科学技術創成研究院 2017パンフレット
- フロンティア材料研究所 2017パンフレット
- News Letter 2017 No.3

## 定足数の確認

運営委員総数13名，公務欠席5名，定足基準数8名，定足数4名，出席者8名で成立

## 議事要録の確認

議長から，前回議事要録（案）について説明があり，これを承認した。

## 議 題

### 1. 研究組織について

神谷所長より，昨年の運営会議にて，拠点の評価なのか研究所の評価なのか分かりにくいとの意見があったため，拠点と研究所の位置付けについて，詳細な議題に入る前に説明させていただきたいとの説明があった。

神谷所長から，フロンティア材料研究所パンフレットに基づき，平成28年4月の東工大教育・研究改革により，研究所は独立した部局ではなく科学技術創成研究院という部局の一組織となったことについて説明があった。

さらに，資料1に基づき，平成28年の教育研究改革以前と以後の，拠点と研究所の関係について説明があった。現在は研究所内の各領域のうち，旧精密工学研究所から移籍した融合機能応用領域（金属・機械）を除く領域が拠点に属している旨、説明があった。

### 2. 教員人事・教員組織について

神谷所長から，資料2-1に基づき，平成29年4月からの教員の異動及び今後の異動予定について説明があった。資料2-2に基づき，平成30年3月1日付の教員組織について説明があった。大学全体として教授・准教授・助教の人数のバランスをとることが課題となっており，研究所無機材料系では今年度助教を重点的に補充（3名採用）したこと、建築系では准教授を1名採用した旨説明があった。現在の研究所の課題としては，准教授の数が少なくなっていることと，建築系の教員数が昨年度と比較してほぼ半減していることなどがある旨説明があった。建築系については大型予算プロジェクトを獲得したこともあり，人事委員会の特別措置により平成30年度予定の常勤助教2名の採用選考を前倒しで開始している旨説明があった。

高梨委員より，研究所の分野を大きく3つ（無機系・建築系・金属系）に分けた場合，それぞれの分野の人数配置はどのようになっているのか質問があった。神谷所長より無機系が50%強，建築系がポスト数では25%程度だが現員数はそれより少なくなっており，金属系は建築系よりポスト数は少ないが現員数は多くなっている状況である旨説明があった。

高梨委員より，人事の体制は研究所に決定権があるのか研究院に決定権があるのか，質問があった。神谷所長より，研究院長からの推薦をもとに学長・人事委員会がトップダウンで決めるが，研究所にて第一案を作成し研究院内で検討する形をとっている旨説明があった。

高梨委員より，教員の任期はどのようになっているのか，質問があった。神谷所長より，教授は任期がなく，准教授と助教は任期が5年+再任5年の最長10年までとなっている旨説明があった。任期のある教員は、新テニユア審査を通過しテニユアに転換するというルートもあるが，人事委員会の審査が厳しいことと，まだ始まったばかりの制度であることもあり，どれくらいテニユアに転換する教員がいるのか現時点では予測できない部分があるとの説明があった。

西山委員より，人事の流動性をどのような尺度で評価しているのか，質問があった。神谷所長より，1年間に常勤教員（含、助教）が何人転出し，何人採用しているかで評価している旨説明があった。また，研究所では年間3名前後流動している旨説明があった。

### 3. 平成28年度決算額・平成29年度予算・外部資金受け入れ状況について

#### 1) 平成28年度決算額について

神谷所長から、資料3-1に基づき、平成28年度決算額について、平成27年度と比較して差が大きい事項について、要因説明があった。

高梨委員より、外部資金と運営費交付金の比率はどうなっているのか質問があった。神谷所長より、外部資金の数億円クラスの超大型プロジェクトを除くと、運営費交付金と外部資金の比率は同じくらいである旨説明があった。

鈴木委員より、決算額の推移の表を見ると、外部資金が右肩下がりのように感じるが何か理由があるのか、また、研究活動に支障は出ていないのか質問があった。神谷所長より、平成24年度は数億円クラスの大型予算プロジェクトを獲得したため特別大きい額になっており、右肩下がりのように見えている旨説明があった。

#### 2) 平成29年度当初予算配分表（運営費交付金）

神谷所長から、資料3-2に基づき、過年度と比較して増減の要因について説明があった。

高梨委員より、共同研究費とはどのような予算なのか質問があった。神谷所長より、拠点を補助する大学からの予算である旨説明があった。

#### 3) 外部資金受入状況について

神谷所長から、資料3-3に基づき、平成29年度の外部資金受入状況について過年度からの経過説明があった。また、運営費交付金の減少分をまかなう以上に外部資金を獲得している旨説明があった。

#### 4. 共同利用研究について

原教授から、資料4-1に基づき、平成22年度から平成29年度までの共同利用研究の採択数等の推移について説明があり、平成28年度において採択数が減少した要因について説明があった。

原教授から、資料4-2に基づき、平成30年度の応募状況の説明があり、来年度の予算状況は厳しくなることが見込まれるが可能な限りの人を採択する方針である旨説明があった。

高梨委員より、今後も課金しない方針なのか質問があった。原教授より、研究設備の消耗品経費は課金するがそれ以外は課金する予定はない旨説明があった。

原教授から、資料4-3に基づき、平成30年度概算要求事項の概要及び内示額について説明があった。

また、国際共同利用共同研究拠点について、委員間で意見交換を行った。

#### 5. 平成29年度の研究所活動状況について

神谷所長から、資料5-1～7に基づき、平成29年度の研究所活動状況を報告した。

#### 6. 学際・国際的高度人材育成ライフイノベーション材料創製共同研究プロジェクト活動報告について

真島教授から、資料6-1～3に基づき、6大学連携プロジェクトの概要説明および、平成30年度の概算要求の説明があった。

以上